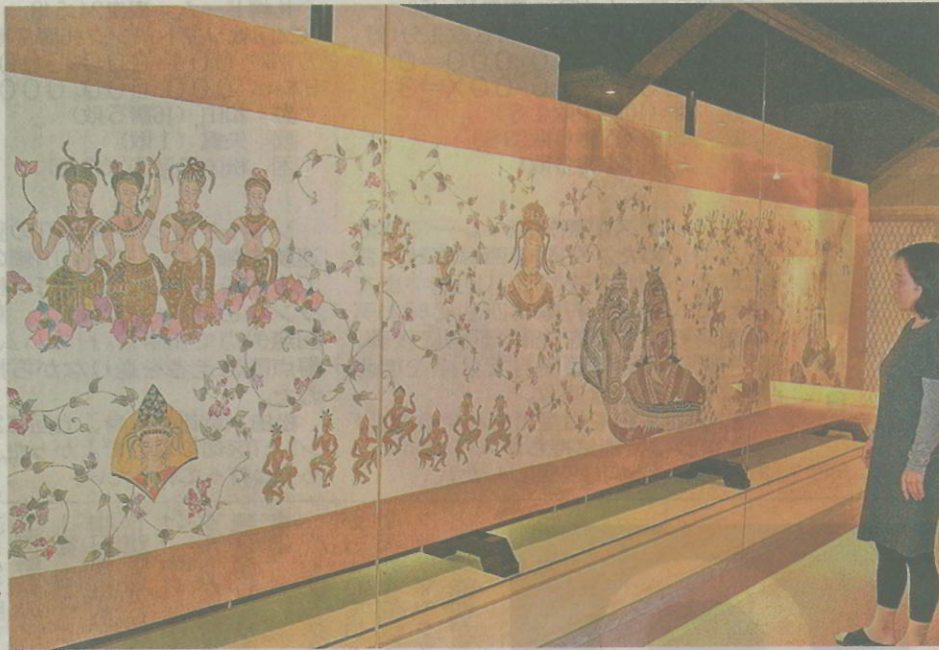


洛 西



青木さんが最晩年に残した大作のタペストリー「天地創世」
人々の平安を祈る気持ちが込められている(向日市・寿恵更紗
ミュージアム)

長岡京市を拠点に創作活動を続けた更紗作家の故・青木寿恵さんの秋の作品展がきょう14日から、向日市寺戸町の寿恵更紗ミュージアムで始まる。東日本大震災の発生を受け、今展は「祈」と題した復興特別展とし、入場料など収益の一部を被災地に寄付し、被災地から府内に避難した人たちを無料招待する。

■ 故青木寿恵さんの40点 ■

復興祈り更紗特別展

収益の一部寄付

向日できょうから

青木さんは、型や版木を一切用いず草木染の手描きで更紗を着物に描き、「寿恵更紗」と呼ばれる独特の作風を確立。国内外で高い評価を得て、病で昨年2月に亡くなるまで創作に取り組んだ。作品展は、毎年春と秋の年2回開催。今秋は復興への願いを込め、青木さんがカンボジア訪問を機に、人々の平安を祈り生み出した作品を主に計40点を展示する。

うち「天地創世」は、最晩年に完成させたタペストリー。縦1.5、横4.5メートルの大作で、ハスの花を持つ女神や大蛇を抱くことなどを描き、「阿修羅」などが繊細に描かれていて、「祈り」「平和」という関係者は「復興を祈る気持ちと、青木さんの平安を願った思いが人々の平安を願った思いと相通する。作品を見るたびに、青木さんの没後に関係者が作品を、少しでも心の安らぎを感じてもらえれば」と話す。

主催のNPO法人「日興への願いを込め、青木さんがカンボジア訪問を機に、人々の平安を祈り生み出した作品を主に計40点を展示する。」

うち「天地創世」は、最晩年に完成させたタペストリー。縦1.5、横4.5メートルの大作で、ハスの花を持つ女神や大蛇を抱くことなどを描き、「阿修羅」などが繊細に描かれていて、「祈り」「平和」という関係者は「復興を祈る気持ちと、青木さんの平安を願った思いが人々の平安を願った思いと相通する。作品を見るたびに、青木さんの没後に関係者が作品を、少しでも心の安らぎを感じてもらえれば」と話す。

主催のNPO法人「日興への願いを込め、青木さんがカンボジア訪問を機に、人々の平安を祈り生み出した作品を主に計40点を展示する。」

うち「天地創世」は、最晩年に完成させたタペストリー。縦1.5、横4.5メートルの大作で、ハスの花を持つ女神や大蛇を抱くことなどを描き、「阿修羅」などが繊細に描かれていて、「祈り」「平和」という関係者は「復興を祈る気持ちと、青木さんの平安を願った思いが人々の平安を願った思いと相通する。作品を見るたびに、青木さんの没後に関係者が作品を、少しでも心の安らぎを感じてもらえれば」と話す。

(広瀬哲裕)